

各地の

たより



折り鶴も

炭になるんだ！

ー森林教室で炭焼き体験ー

〈ふれあいセンター〉



九月二十九日、松野町立松野西小学校四年生二一名を対象に、今年度第四回目的森林教室を実施しました。

この日のテーマは、「炭焼き体験」です。始めに、炭の種類や利用法を説明し、炭を使った日用品を紹介したり、白炭と黒炭を顕微鏡で観察するなど、炭への関心を持たせました。

続いて炭焼き体験になりました。児童達は、職員から手順や注意点を聞き、早速、もみ殻とともに各自が持参したマツボックリやドングリ、折り鶴などを小型のブリキ缶に詰めていきました。そして、ドラム缶のたき火で焼くこと約三〇分、煙の色が透明になったことをみんなで確認して、缶を取り出しました。

ふたを開ける時は、少し心配そうでしたが、炭になっていたのひと安心、また、折り鶴や紙飛行機もちゃんと炭になっていました。

児童からは、「炭焼き体験は楽しかった」「炭は色々な利用ができることが分かった」等の感想があり、身近にある材料を使った炭づくりを通して、炭への関心と理解に繋がる学習となりました。

また、この日は地元テレビ局二社の取材があり、夕方のニュースで紹介されました。

国際交流キャンプで 森林教室

〈徳島森林管理署〉

天候に恵まれた九月五日、ファガスの森（徳島県那賀郡那賀町）で、徳島市国際交流協会の要請を受け、日本、他、中国、モンゴル、ブータン、アメリカなど、計八カ国約五〇名を対象に森林の話や巣箱作りを行いました。

徳島県在住の外国人と日本人の交流を促進している同協会が、森林での体験活動を通じて、日本文化への理解を深めて欲しいという強い願いか

シリーズ 2 ようこそ香川森林管理事務所へ

飯の山風景林



金刀比羅宮から望む飯野山

飯野山は讃岐平野に忽然とそびえる高さ四二二メートルの山塊で、円錐形の優雅な山容は別名「讃岐富士」と呼ばれ、山麓と山頂の一部を除き

大部分が国有林で、飯の山風景林に指定されています。丸亀市と坂出市にまたがり、山麓の北側を東西に走る高松自動車道からは秀麗な姿が通行者の目を楽しませるとともに、交通の目印ともなっており、頂上付近の森林は、瀬戸内海を航行する船舶等の安全のための航行目標保安林にも指定されています。

飯野山には丸亀市と坂出市のそれぞれに登山口があり、頂上まで約一時間で登ることができます。頂上までの間に飯野山を一周する登山道からは、讃岐平野を三六〇度眺めながら登ることができ

き、多くの方がハイキング等に訪れます。近隣住民の中には、ほぼ毎日登る愛好家もいます。また、県外からは、「讃岐うどん」と「飯野山登山」のセットで訪れる方も多く聞きます。

飯野山は、かつては樹齢百年を超すマツで覆われていました。しかし、昭和四十年代からのマツ枯れ被害のため、現在ではマツのほか、コナラやウバメガシ等の広葉樹が生育しています。

現在も多くの方々に利用していただいている飯野山ですが、香川森林管理事務所では、比較的都市部に近いことを利用して、自治体等との連携により複数の学校等を対象とした森林環境教育の一層の推進を図るため、学習・体験プログラムやフィールドの整備等を行う森林・林業体験交流促進対策事業を今年度から行うこととしています。

どろんこサッカー大会に参加

（四万十森林管理署）



高知県と愛媛県が県境篠川で接する、高知県宿毛市山北地区と愛媛県愛南町正木地区の総称「篠南地区」において、九月六日、恒例の「第一九回県境篠山騒動どろんこサッカー大会」が行われ、今年は当署職員に愛媛、徳島森林管理署職員も加えた合同チーム（二チーム）を結成し出場しました。

このイベントは、地元の青年グループ「篠山クラブ」が地域おこしの一環として始めたもので、第一回大会からスポーツ好きの職員有志で「フオレスターズ」を結成・参戦しており、平成一三年八月より、同地区が四万十森林管理署から愛媛森林管理署へ編入されたことで、近年は若干疎遠となっていました。今年も篠山クラブのスタッフとして愛媛署職員が活動する傍らで、当署の若手精鋭選手達があプレー・珍プレーを見せつつ、文字通り泥まみれになって奮戦し、見事に両チームとも初戦突破を果たすなど、大阪から来ていたお笑いタレントチームにも負けないぐらい会場を盛り上げていました。

かつて、同地区には旧宿毛営林署正木製品事業所と正木担当区事務所があり、良質のヒノキを有する篠山の麓で、県境を越えた住民同士との交流が活発な地域でした。組織再編や職員の減少に伴い、地域と関わる機会が少なくなりましたが、毎年この大会に参加し、地元住民との交流を楽しみ、少しでも地域の活性化に協力できるよう取り組んでいます。



ます。

来年はベスト八以上の成績目標を掲げるとともに、国有林のPRとして、一般客向けの食事・休憩スペースも兼ねた愛媛署、四万十署の合同ブースを設置し、地球温暖化防止や国産材活用推進のパネル展示等も検討したいと考えています。

なお、当日の様子は翌日の高知新聞朝刊で報じられ、当署チーム「えいじ軍団」の試合の様子が記事写真として掲載されていました。

シリーズ 88

現場第一線から

嶺北森林管理署

瀬戸森林事務所

森林官 原崎

誠



筆者：左

瀬戸森林事務所は、早明浦ダムへ注ぎ込む瀬戸川上流の約二、二六〇haの森林を管理しております。管内には、本川揚水発電の要である稲村ダムや標高約一、五〇〇mの稲叢山があります。

稲村ダムは、近くの国有林野から岩石を削り取り築造さ



れた「傾斜土質しや水壁型ロックフィルダム」で、標高約一、一二〇mにあるめずらしいダム湖ではないかと思えます。その湖畔には、ボラソテアの方々が植栽された、桜やモミジが四季折々の姿で観光客・登山者の目を楽しませております。

稲叢山の山頂に続く登山道には、アケボノツツジやシヤクナゲが自生しており、春



にはアケボノツツジのピンクの花が咲き、この花目当てに観光客や登山者が多く訪れます。また、山頂からは稲村ダム湖全体が一望でき、遠くには西日本最高峰の石鎚山等が展望でき、山々が優雅さを競い合っています。

また、管内には遊々の森「いなむら体験の森」があり、近隣の小学校生や各団体の方々の植樹の場や、森林環境教育のフィールドとして活用されています。

職員は、私と基幹作業職員一名で、林道維持、境界管理

及び整備、森林の管理・調査、合同での保育間伐等の造林事業等々の業務を行っております。

管内は急傾斜地が多く存在し、足腰に厳しい地形をしています。そのような地形の為、怪我をせぬよう心がけ日々調査・管理業務を遂行しております。

森林官になり約八年の歳月が経ち、この瀬戸森林事務所に在勤してから四年目を迎えることになりましたが、まだ分からないことばかりなのが現状です。森林官の業務は管内国有林野の状況を多岐に渡り把握しておかなければならないのですが、まだ行ったことのない箇所があるなど十分なところもあります。

今後とも日々精進していくことはもとより、先代の方々が苦労して植栽された造林木や苦労して埋設した境界標の管理を行い、無事に後生に残せるよう頑張っていきたいと思っております。